




收受年月日	議長	事務局長	書記
27.6.11			
第 53 号			

平成 27 年 6 月 11 日

埴町議会議長 鈴木道男 様

少子高齢化対策調査特別委員会
委員長 割 貝 寿 一



少子高齢化対策調査特別委員会中間報告書

本委員会に付託された事件について下記のとおり活動概要を報告します。

記

1 調査の経過

委員会等の開催

第 1 回委員会（平成 27 年 3 月 11 日）

正副委員長の選任。委員長に割貝寿一議員、副委員長に鈴木安次議員を選任。

視察研修（平成 27 年 4 月 8 日）

棚倉町議会少子化対策特別委員会の運営について視察研修及び意見交換。

第 2 回委員会（平成 27 年 4 月 8 日）

委員会の運営について意見交換。

第 3 回委員会（平成 27 年 4 月 22 日）

少子高齢化の現状についての聞き取り、少子化問題の意見交換。

第 4 回委員会（平成 27 年 5 月 13 日）

少子高齢化の課題についての聞き取り、少子化対策の意見交換。

第 5 回委員会（平成 27 年 6 月 8 日）

中間報告内容協議

2 調査の結果

1 はじめに

本委員会は、少子化の現状把握と施策のありかた及び町民の心と体の健康づくりについて調査するため設置されたものである。最終的には町民が生き生き

と暮らすための方向性を見出すことが課題である。したがって、人口増加あるいは人口減少に歯止めをかけることのみを目的とするものではない。

本委員会は、少子高齢化問題を人口減少問題としてとらえるのではなく、人口減少社会にあってわが町がわが町であり続けるためにはどうあるべきかを検討する場をめざすものである。

2 少子高齢化の問題点

人口構成は、0歳から15歳未満を年少人口、15歳から65歳未満を生産年齢人口、65歳以上を老年人口と大きく3つに区分される。生産年齢階層が年少階層や老年階層を養って生活が営まれるとすれば、当然適正な人口構成はどうあるべきかは明白である。持続的に適正な年齢階層が成り立っていけば問題はないが、人口構成の変化により老年人口が増え、さらに、将来の生産年齢人口となるべき年少階層が減るという悪循環に陥っている。これでは、持続可能社会は望めない。これらの解決のためには少子解消（少子化対策）と生産年齢階層の拡大（高齢化対策）を図らなければならない。

3 少子高齢化の現状と課題

(1) 現状

ア 人口

埴町の平成22年国勢調査人口は9,884人で、ここ30年で最高だった昭和60年と比べ2,282人（18.8%）減少している。年齢層で見ると15歳未満人口が約半減し、その分65歳以上人口が増加している。また、10歳区分の人口構成を図2に示したが50歳以上が全体の5割以上になっている。

図1 埴町人口の推移（国勢調査）

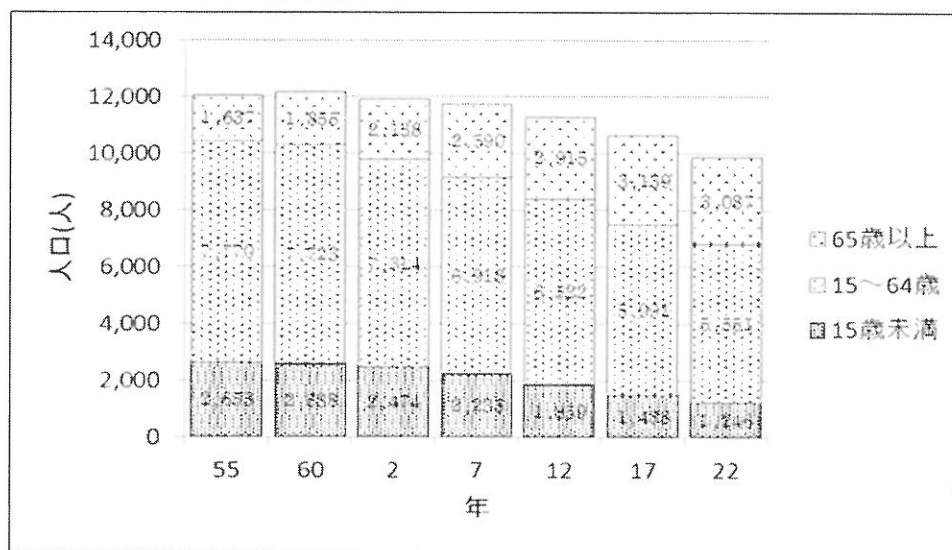
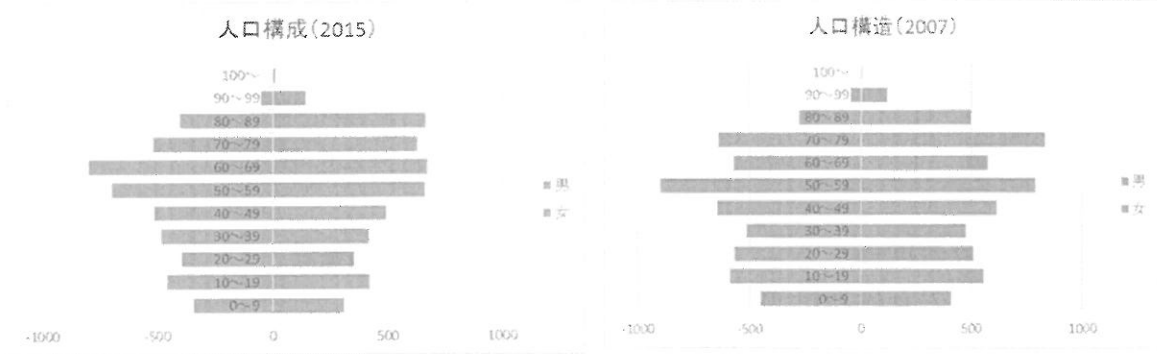


図2 10歳階級別人口構成（住民基本台帳）



イ 人口動態

表1は最近3年間と10年前3年間のデータを示したものである。人口全体の減少には大差ないが自然減と社会減の数が逆転しており、最近3か年平均では、自然減が社会減の2倍になっている。

表1 埴町人口動態

単位：人

	人口	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減
平成16年	11,041	79	107	△ 28	256	378	△ 122
平成17年	10,932	87	127	△ 40	290	364	△ 74
平成18年	10,783	74	127	△ 53	259	343	△ 84
3カ年平均		80	120	△ 40	268	362	△ 94
平成25年	9,685	53	153	△ 100	264	292	△ 28
平成26年	9,552	67	137	△ 70	231	293	△ 62
平成27年	9,435	60	139	△ 79	264	304	△ 40
3カ年平均		60	143	△ 83	253	296	△ 43

(町民課調べ)

ウ 出生数

① 出生率

本町の合計特殊出生率は、1.63で、国、県の平均を上回っているが、これまで大幅に低下してきた。女性人口の減少及び晩婚化などから今後も低下すると見込まれている。

※合計特殊出生率：その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

表2 平成24年合計特殊出生率

埴町	棚倉町	矢祭町	鮫川村	福島県	全国
1.63	1.67	1.69	1.61	1.48	1.38

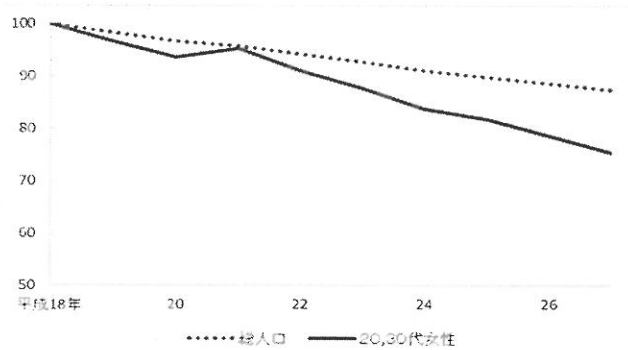
表3 合計特殊出生率の比較

	昭和58～昭和62	平成20～平成24	差
埴町	2.41	1.63	△0.78
福島県	1.65	1.57	△0.08
全国	1.39	1.32	△0.07

② 女性数の推移

20代、30代の女性数は平成18年を100とした平成27年の指数は75.5である。総人口の減少に比べ減少率が大きく、子どもを産む女性そのものが減少している。

図3 20、30代女性の推移



③ 未婚者数

平成22年現在の30～49歳の未婚者数は男349人、女128人であった。10年前に比べ男で約2割増加し、女では2倍になっている。それぞれの年齢層の未婚率を表4に示したが、30～34歳では男女とも約2割増加しており晩婚化がうかがえる。

表4 年齢層別未婚率比較 (国勢調査)

	平成2年		平成22年		差引	
	男	女	男	女	男	女
埴町						
20～24歳	88.8	74.9	87.4	74.0	△1.4	△0.9
25～29歳	60.8	31.3	62.1	46.2	1.3	14.9
30～34歳	34.2	7.7	53.5	27.0	19.3	19.3
35～39歳	21.3	4.0	34.6	14.1	13.3	10.1
40～44歳	13.2	1.9	24.1	7.8	10.9	5.9
45～49歳	5.1	3.7	23.9	8.6	18.8	4.9

図4は年齢層別未婚率を全国平均と比較したものである。また、表5は参考として棚倉町、白河市の未婚率を表記した。晩婚化など未婚者の増加は全国的傾向と言える。

図4 年齢層別未婚率比較 (平成22年国勢調査)

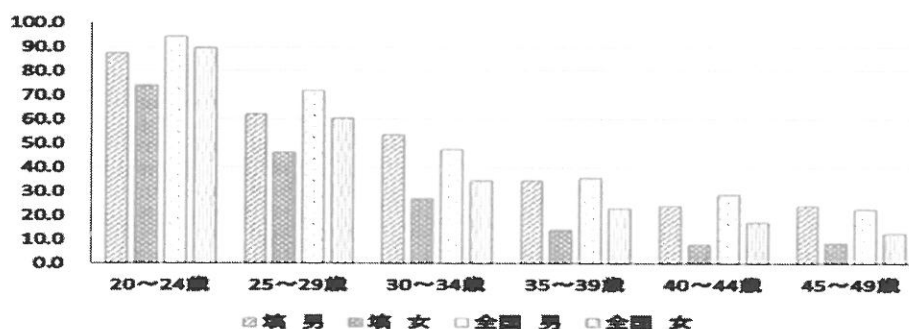


表5 棚倉町及び白河市の未婚率（国勢調査）

	平成2年		平成22年		差引	
	男	女	男	女	男	女
棚倉						
20～24歳	90.0	77.6	89.0	74.0	△ 1.0	△ 3.6
25～29歳	57.5	25.5	61.0	46.2	3.5	20.7
30～34歳	26.8	8.4	38.4	24.3	11.6	15.9
35～39歳	16.5	3.7	36.4	15.6	19.9	11.9
40～44歳	9.1	3.0	23.7	9.8	14.6	6.8
45～49歳	5.8	2.0	19.1	6.4	13.3	4.4

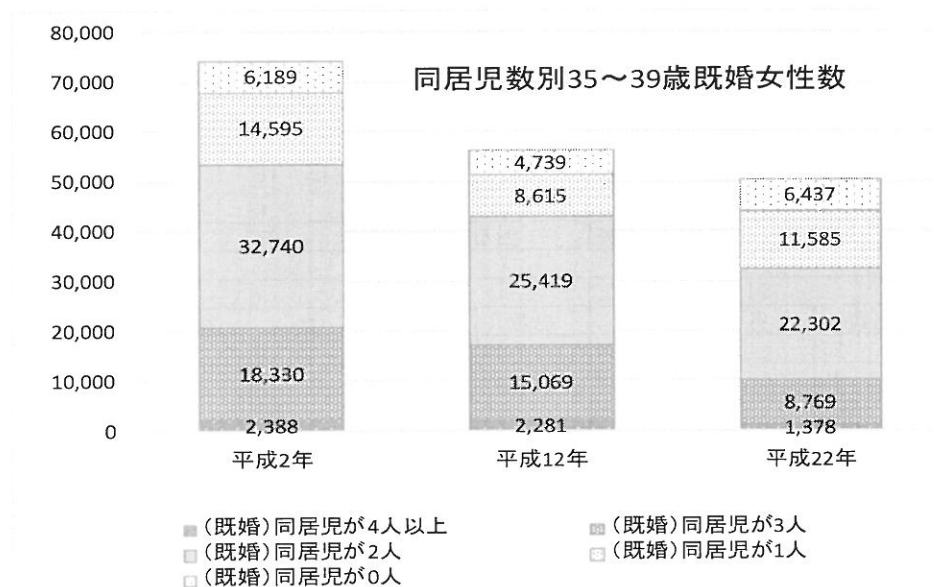
	平成2年		平成22年		差引	
	男	女	男	女	男	女
白河						
20～24歳	88.0	79.9	89.1	80.1	1.1	0.2
25～29歳	59.6	31.0	63.2	45.1	3.6	14.1
30～34歳	30.7	12.7	44.8	25.5	14.1	12.8
35～39歳	15.7	5.7	33.3	16.6	17.6	10.9
40～44歳	10.7	5.1	30.1	12.1	19.4	7.0
45～49歳	5.8	4.0	20.9	7.5	15.1	3.5

④既婚女性の出生数

既婚女性の出生数については、国勢調査で実施している35～39歳既婚女性の同居児数から類推する。ただし、市町村単位の集計がないので福島県のデータ（図5）から町の状況を推定する。

これによると、3人以上の割合が8ポイント減少し0～1人の割合が8ポイント増加している。子供がいない割合は5%増加し13%になっている。少子化の要因として、女性数そのものの減少のほか、晩婚化、未婚化が上げられるが、一人当たりの出産数の減少が進んでいるといえる。

図5 同居児数別35～39歳既婚女性数



エ 死亡者数

年間死亡者数は約140人で増加傾向にあるが、平均寿命は全国平均をわ

ずかに下回るものの伸びを示している。死亡者数の増加は高齢者の増加による影響が大きいものと思われる。

表6 平均寿命（市区町村別生命表）

男	平成12年	平成17年	平成22年
埴町	76.8	77.6	79.2
福島県	77.1	78.0	78.8
全国	77.7	78.8	79.6

女	平成12年	平成17年	平成22年
埴町	85.5	85.5	85.8
福島県	84.2	85.5	86.5
全国	84.6	85.8	86.4

オ 転入・転出

表1のとおり直近3カ年の転入転出の差は平均で43人の減となっている。これは、10年前の約半数であるが、特に10代後半から20代前半の人口減少に伴い転出数が減少したためと思われる。なお、表6、7は年齢階層別転入転出を示したものであるが、20代の転出超過者が増加する一方で、60歳以上の転入者が増えている。

表6 年齢階層別転入転出数の推移（現住人口調査）

転入 年齢階層	平成24年			平成25年			平成26年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0～9	21	9	12	28	19	9	20	10	10
10～19	7	7	0	3	3	0	17	10	7
20～29	89	42	47	82	38	44	59	29	30
30～39	34	17	17	43	18	25	44	25	19
40～49	19	13	6	18	12	6	16	9	7
50～59	15	15	0	5	5	0	12	8	4
60～	31	15	16	28	11	17	49	20	29
不詳	7	0	7	7	1	6	5	2	3
総数	223	118	105	214	107	107	222	113	109

転出 年齢階層	24			25			26		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0～9	27	13	14	13	13	0	42	27	15
10～19	46	27	19	30	15	15	28	13	15
20～29	138	64	74	126	65	61	115	53	62
30～39	46	25	21	44	22	22	52	24	28
40～49	19	12	7	16	8	8	10	6	4
50～59	21	15	6	7	7	0	8	3	5
60～	24	11	13	26	9	17	24	9	15
不詳	0	0	0	11	1	10	3	1	2
総数	321	167	154	273	140	133	282	136	146

表7 年齢階層別転入転出数差の推移（現住人口調査）

年齢階層	平成24年			平成25年			平成26年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0～9	△ 6	△ 4	△ 2	15	6	9	△ 22	△ 17	△ 5
10～19	△ 39	△ 20	△ 19	△ 27	△ 12	△ 15	△ 11	△ 3	△ 8
20～29	△ 49	△ 22	△ 27	△ 44	△ 27	△ 17	△ 56	△ 24	△ 32
30～39	△ 12	△ 8	△ 4	△ 1	△ 4	3	△ 8	1	△ 9
40～49	0	1	△ 1	2	4	△ 2	6	3	3
50～59	△ 6	0	△ 6	△ 2	△ 2	0	4	5	△ 1
60～	7	4	3	2	2	0	25	11	14
不詳	7	0	7	△ 4	0	△ 4	2	1	1
総数	△ 98	△ 49	△ 49	△ 59	△ 33	△ 26	△ 60	△ 23	△ 37

(参考)

表8 隣接町の人口動態の推移

		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
出生数 (人)	埴町	74	97	75	70	81	64	72	66	65	61
	棚倉町	150	143	165	144	122	133	144	140	115	115
	矢祭町	39	44	46	43	48	31	53	49	46	46
死亡数 (人)	埴町	102	116	130	135	126	119	143	150	156	155
	棚倉町	154	164	168	184	198	157	155	177	178	183
	矢祭町	107	94	88	74	100	94	94	112	113	117
転入者数 (人)	埴町	273	292	221	253	209	212	252	212	200	223
	棚倉町	528	510	470	497	382	390	407	386	348	391
	矢祭町	182	162	172	159	137	139	131	125	157	123
転出者数 (人)	埴町	408	394	364	390	359	388	315	300	290	321
	棚倉町	768	678	735	674	554	564	601	471	489	491
	矢祭町	228	210	195	182	217	172	163	-	-	-

(2) 課題

ア 出生率の向上

図6 合計特殊出生率と女性就業率（就業構造基本調査、人口動態統計）

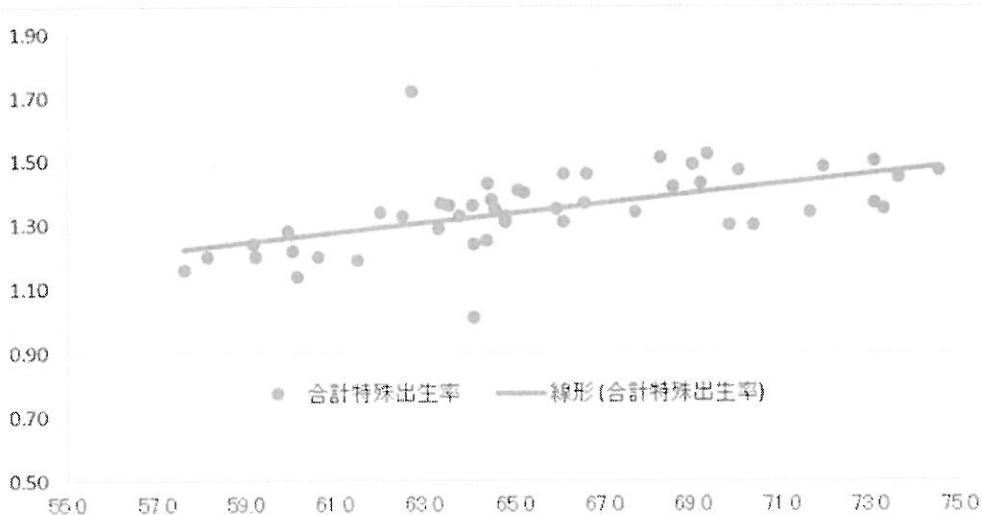


図6は就業率と合計特殊出生率の関係を示したものである。全国都道府県のデータを基に作成したもので正の相関関係がみられる。女性の就業率が高いほ

ど合計特殊出生率は高いことを表している。

次に、同じく女性就業率と三世同居の関係を図 7 に示す。明確な関係があるとは言えないが三世同居率が高い都道府県ほど女性就業率が高い傾向にある。三世同居は子育て世代が就業しやすい環境の一つと言えるのではないかと。表 9 に東白川郡の三世世帯率を示すが、埴町は郡内で一番低い。

図 7 三世同居率と女性就業率（国勢調査、就業構造基本調査）

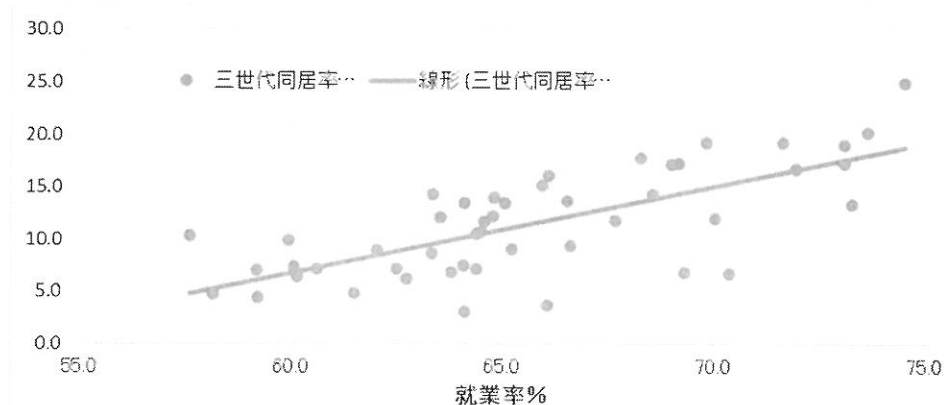


表 9 親族世帯のうち三世世帯数及び割合の推移

国勢調査実施年		H12	H17	H22
埴町	親族世帯数	2,659	2,593	2,470
	3 世代世帯数	1,001	891	742
	割合 (%)	37.6	34.4	30.0
棚倉町	親族世帯数	3,795	3,756	3,682
	3 世代世帯数	1,407	1,284	1,131
	割合 (%)	37.1	34.2	30.7
矢祭町	親族世帯数	1,689	1,682	1,617
	3 世代世帯数	687	603	515
	割合 (%)	40.7	35.9	31.8
鮫川村	親族世帯数	971	952	925
	3 世代世帯数	525	489	368
	割合 (%)	54.1	51.4	39.8
全国	親族世帯数	33,679,286	34,337,386	34,515,547
	3 世代世帯数	4,715,940	4,239,450	3,642,606
	割合 (%)	14.0	12.3	10.6

以上のとおり、出生率の向上には、女性の仕事の場確保又は仕事をしながら子育てができる環境整備が課題となる。また、先にのべた未婚解消も課題の一つである。

イ 子育ての課題

現在埴町の少子化の課題として次の通り説明があった。

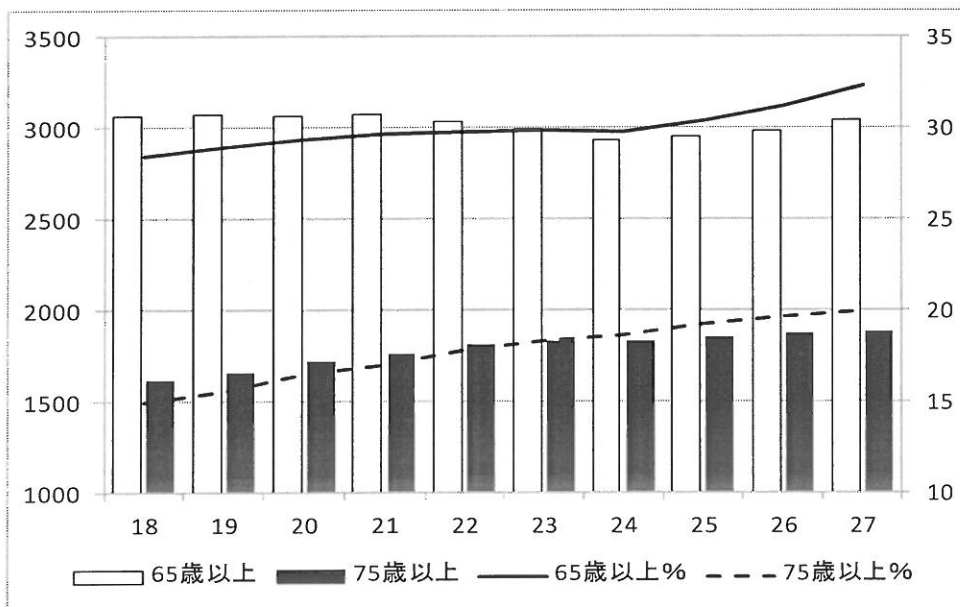
- ① 保育園
 - ・園舎が老朽化し手狭となっている。
 - ・入園申し込みが増加し、現在 11 人の待機者がいる。
 - ・保育士が不足している。
- ② 幼稚園
 - ・園児が減少している。特に常豊幼稚園は 12 人である。統合の検討が必要である。
- ③ 放課後児童クラブ
 - ・各小学校単位に設置され、常豊、笹原は小学校を利用しているが、埜では公民館台宿分館で実施している。埜での利用児童数は 59 人となっており、1 グループ 40 人以下という国の基準を超えている。また、利用児童は小学 3 年生までだったものが制度改正により 6 年生まで拡大されたが、受け入れできない状況である。
- ④ 一時預かり制度
 - ・保護者の急用等の場合に子どもを一時的に預かる制度の要望はあるが実施していない。(次年度実施に向けて検討中)
- ⑤ 育児不安解消の場
 - ・育児の悩みを相談する場、機会を増やしてほしいとの要望がある。

いずれも子育て環境整備として基本的かつ重要な課題であり早急な対策が望まれる。特に、保育園、幼稚園の再編（幼保連携型子ども園の整備）については計画から実施まで時間を要することから直ちに検討を開始すべきである。

ウ 高齢化

平成 27 年 3 月末時点の 65 歳以上人口の割合、75 歳以上人口の割合はそれぞれ 32.3%、20.0%であった。実に、町民の 3 人に 1 人は 65 歳以上、5 人に 1 人は 75 歳以上ということになる。

図 8 高齢化率等の推移（町民課調べ）



次に、世帯構成をみると高齢者だけの世帯が高齢者がいる世帯の約3割に上り、増加傾向を示している。

図9 高齢者世帯の推移（国勢調査）

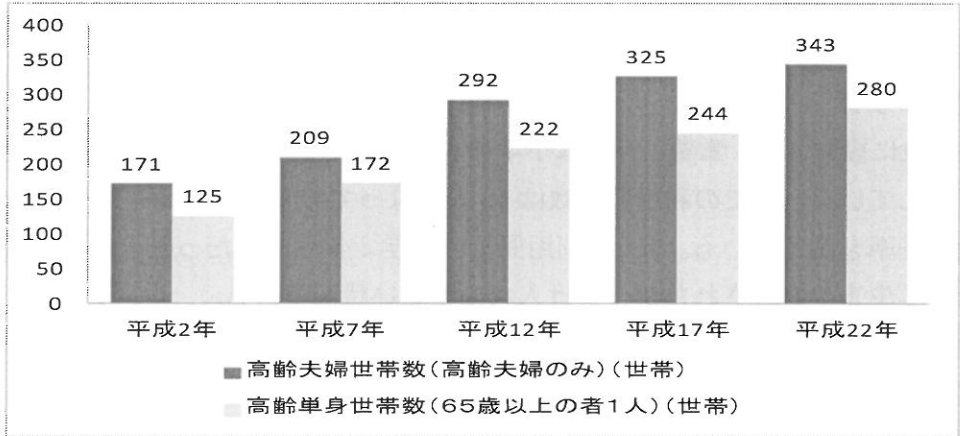


表10によると、今から20年後には町民の約2人に1人は65歳以上となり、生産年齢人口（15歳から64歳人口）を超える見込みである。また、75歳以上人口も3割を超える。これは、医療費、介護費用の増大や一人暮らし高齢者の支援等課題山積である。

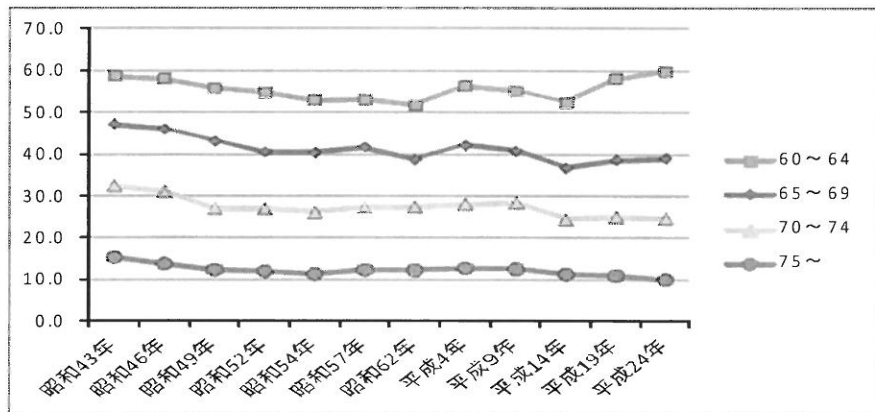
表10 埴町の人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）

	2020年	2025年	2030年	2035年
総人口(人)	8,611	7,954	7,343	6,752
年少人口割合(%)	9.3	8.7	8.2	7.8
生産年齢人口割合(%)	52.3	49.4	47.3	45.7
老年人口割合(%)	38.4	41.9	44.5	46.5
75歳以上人口割合(%)	21.9	23.9	28.0	31.5

次に、本委員会は高齢者対策を生産年齢層の拡大ととらえていることから高齢者の有業割合をみる。図10は福島県の統計調査のデータであるが、高齢者の有業率は全体的には微減している。

図10 福島県60歳以上年齢層別有業率の推移(就業構造基本調査)

有業率向上は高齢問題解決の有効な手段の一つではないか。



4 まとめ

少子高齢化（人口減少）は、全国的な問題であり我が国の根幹にかかわるものである。埴町はこれらに対して過疎問題として取り組んできており、決して新しい問題ではない。この問題は、現在の埴町が誕生してからずっと続いているとあってよい。したがって、対策の基本はこれまで続けていた施策を愚直に続け、魅力あるまちづくりを行うことであろう。ただし、目的、効果を考えたとき見直すべきものは見直し、改善すべきものは改善する勇気とスピード感を持った対応が求められる。

